

対話イベント

あと
知っていますか？災害に遭った「後」の日々

非日常から 日常を感じられるまでの できごとについて

東日本大震災の直後、新潟や高崎へ一時避難。
「学校がはじまる」という情報を得ていわきに戻り、
被災した街に数ヶ月暮らしたあと、函館へ母子避難。
帰ることも考えた。
でも、家族で函館に暮らすことになった。
13年の間に、震災前には考えもなかったさまざまな選択と大きな決断を繰り返してきた。

参加
無料
要申込

2024年

9 / 7 土 14:30~16:30

会場：函館市亀田交流プラザ3階 大会議室2
〒041-0806 北海道函館市美原1丁目26-12



非日常から 日常を感じられるまでの できごとについて

渡島地域では、命を守るための防災や減災への取り組みがすすみ、今年 6 月には北斗市と七飯町が災害時の覚書を結び、双方の避難所で住民を受け入れあうなど自治体間の協力体制も強化されています。

避難所の場所や避難所運営、防災グッズ、ローリングストックなどの「災害への備え」には多くの人が関心を寄せるようになりましたが、災害に遭った後、一人ひとりの身に起こるさまざまなできごとについてはあまり伝えられることがなく、自分に置き換えて想像するのは難しいのではないのでしょうか。

東日本大震災により大きな被害を受けながらも、原発事故による広域避難者の受け入れも行った福島県いわき市で、橘高由香さんは避難をするかどうか約半年間悩んだ末、函館市への母子避難を決意しました。

—避難先は誰が教えてくれるの？支援情報は誰が届けてくれるの？子どもの転校手続きは？函館で住む場所は？今だから伝えられる発災後のリアルを、時間軸に沿って対話形式でお話いただき、会場のみなさんとその時々のできごとを共有します。渡島地域で災害が起きた「後」のことを想像し、一人ひとりの「心の備え」にしませんか？

14:15 開場

14:30 「非日常から日常を感じられるまでのできごとについて」 ゲストスピーカー 橘高 由香さん
聞き手 北海道 NPO サポートセンター 金榮 知子

15:45 会場ディスカッション (16:30 終了)

※オンライン配信はありません。

ゲストスピーカー

橘高 由香 (きつたかゆか) さん

1984 年福島県いわき市生まれ。

東日本大震災から 7 ヶ月後の 2011 年 10 月、6 歳・4 歳・1 歳の息子 3 人とともに福島県いわき市から函館市へ母子避難。避難後は子育てと二重生活を支えるための仕事を W ワークで奮闘する。

震災と避難を経験し、母として健康と命の大切さを思う気持ち、未来への選択が大きく変化。避難から 10 年を迎えた 2021 年 10 月にプライベートジム「CoolBeauty」をオープンし、これからの人生のために、健康で生きる価値、運動の楽しさを追求中。

また、スポーツを通じて地域に恩返しをしたいという思いで「函館ナイスモルック」を結成。木の棒を投げて点数を競い合う【モルック】で地域交流、健康増進、健康寿命を伝えている。



申込方法

申込締切 8月30日(金) 定員 30名 (定員になり次第締切ります)

申込方法 下記いずれかの方法で、北海道 NPO サポートセンターまでお申し込みください。

①電話 011-200-0973 (平日 10 時~17 時)

②メール info@hnposc.net

メール件名に「函館対話イベント」と明記してお送りください。

③Google フォーム (右下 QR コード)

申込事項 1) お名前 2) 電話番号 3) お住まいの市町村

4) 東日本大震災により避難された方は避難元市町村

お問合せ NPO 法人北海道 NPO サポートセンター 担当: 金榮、菅原

電話 011-200-0973 メール info@hnposc.net

(平日 10:00~17:00)



Google フォーム